小学校

平成8年度

# 教育研究員研究報告書

## 教育課題

東京都教育委員会

平成８年度

# 教育研究員名簿（教育課題）

| 分科会 | 地区 | 学校名 | 氏名 |
|---|---|---|---|
| 第一分科会 | 新宿区 | 落合第二小 | 川野勝己 |
| | 墨田区 | 堤小 | 森本佳澄 |
| | 大田区 | 蓮沼小 | 小澤秀行 |
| | 杉並区 | 杉並第七小 | 細谷祐造 |
| | 板橋区 | 板橋第一小 | 伊藤賢 |
| | 葛飾区 | 中之台小 | 浅岡寿郎 |
| | 青梅市 | 新町小 | 浅見僚子 |
| | 国分寺市 | 第二小 | 神田しげみ |
| | 多摩市 | 南貝取小 | △野本厚子 |
| 第二分科会 | 文京区 | 柳町小 | 清水智子 |
| | 江東区 | 亀島小 | 江田研吾 |
| | 世田谷区 | 京西小 | 大友直美 |
| | 北区 | 王子第一小 | △葉本喜信 |
| | 練馬区 | 大泉小 | ◎伊佐考示 |
| | 江戸川区 | 南葛西小 | 三澤伸二 |
| | 調布市 | 北ノ台小 | 宮崎雅人 |
| | 田無市 | 田無小 | 伊尻正一 |
| | 稲城市 | 稲城第八小 | 丸本敦嗣 |
| 第三分科会 | 台東区 | 根岸小 | 藤森克彦 |
| | 品川区 | 大井第一小 | 三山明子 |
| | 中野区 | 中野本郷小 | 須藤太郎 |
| | 荒川区 | 第五瑞光小 | 大川和也 |
| | 足立区 | 西新井小 | △石井勉 |
| | 八王子市 | 由井第二小 | 小澤智幸 |
| | 小平市 | 小平第十一小 | 内海將行 |
| | 武蔵村山市 | 第一小 | 小野將和 |

◎全体世話人　　△分科会世話人

担当　教育庁指導部初等教育指導課指導主事　岡本昌己
多摩教育事務所指導課指導主事　真如昌美

# 目　　次

**生きる力をはぐくむ教育活動の研究**


Ⅰ　**研究の概要** …… 2

　研究の意義とねらい …… 2

Ⅱ　**研究の内容・方法** …… 3

1　各分科会の研究主題について …… 3

2　研究の進め方 …… 3

3　研究構造図 …… 4～5

Ⅲ　**第一分科会**

**＜人と人とのかかわりの中で，共に高まり合える児童の育成＞** …… 6

1　分科会研究主題の設定理由 …… 6

2　研究の視点 …… 6

3　研究の内容 …… 6

4　実践事例 …… 8

5　研究のまとめと今後の課題 …… 11

Ⅳ　**第二分科会**

**＜自己を見つめ，互いに伸びようとする児童を育てる支援の在り方＞** …… 12

1　分科会研究主題の設定理由 …… 12

2　研究のねらいと仮説 …… 12

3　研究の内容 …… 13

4　実践事例 …… 14

5　研究のまとめと今後の課題 …… 17

Ⅴ　**第三分科会**

**＜一人一人がさらに輝くために～磨き合い，支え合う児童の育成～＞** …… 18

1　分科会研究主題の設定理由 …… 18

2　研究のねらいと仮説 …… 18

3　研究の内容 …… 18

4　実践事例 …… 19

5　研究のまとめと今後の課題 …… 23

Ⅵ　**研究のまとめと今後の課題** …… 24

1　研究のまとめ …… 24

2　今後の課題 …… 24

# Ⅰ　研究の概要

共通研究主題

## 生きる力をはぐくむ教育活動の研究

**研究の意義とねらい**

(1)　研究の意義

これからの社会は，変化の激しい，先行き不透明な，厳しい時代と考えられる。そのような社会では，変化に主体的に対応し，他者と積極的にかかわりながら自らの道を切り開くなどの，「生きる力」をはぐくむことが必要である。

今日，「子供たち」はあふれる物質や最先端の技術，世界からの瞬時の情報に囲まれて恵まれた生活を送り，知識が豊富，順応性がある，機械に強い，与えられた課題にはよく努力するなど，よさをたくさんもっている。しかし，自ら学ぶ力や表現力，行動力，判断力，創造力をはじめ，人とのかかわりの未熟さ，自立の遅れ，社会性の不足，倫理観や耐性の欠如，健康や体力の問題など，教育の課題となっていることも多い。

「子供たち」に「生きる力」をはぐくんでいくことは，これらの教育課題はじめ，いじめや不登校の問題など学校教育が当面する緊急課題の解決にも結び付くと考えられる。

中央教育審議会では，「生きる力」を次のように定義した。すなわち

① 自分で課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決する資質や能力

② 自らを律しつつ，他人と協調し，他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性

③ たくましく生きるための健康や体力

私たちは，これらをバランスよくはぐくんでいくことが必要であると考え，研究を進めた。

(2)　研究のねらい

学校教育の中で「生きる力」をはぐくんでいくためには，「自分の考えをもって主体的に学ぶ力を付けることができるようにすること」，「他者と積極的にかかわり合い，互いを高め合える関係の中で，豊かな人間性を身に付けることができるようにすること」，が必要である。

そこで本年度は，以下の３つの視点を基本として児童に「生きる力」をはぐくむ教育活動の研究に取り組むこととした。

① 児童主体の教育活動を成立させる。

② 児童にとって課題となることを，自らの力で解決していくための学び方を身に付けることができるようにする。

③ 他者と積極的にかかわる中で，自他をよく知り，認め合えるようにする。

# Ⅱ　研究の内容・方法

## 1.　各分科会の研究主題について

本主題での研究１年目の今年は，これまでの教育課題研究員の研究成果や課題を基にしながら「新しい学力観」をより積極的に進め，児童に「生きる力」をはぐくむ教育活動の研究について次の分科会主題，を設定して取り組むことにした。

第一分科会　・人と人とのかかわりの中で，共に高まり合える児童の育成
第二分科会　・自己を見つめ，互いに伸びようとする児童を育てる支援の在り方
第三分科会　・一人一人がさらに輝くために　－磨き合い，支え合う児童の育成－

## 2.　研究の進め方

共通研究主題を具現化するために，各分科会では以下の仮説を立て，研究を進めた。

(1)　第一分科会

主題実現にあたり，①発達段階や一人一人に合った課題の設定の工夫　②自ら学び，課題を解決する授業展開の工夫　③共感的存在としての教師の在り方を研究の前提とした上で研究の視点を次のように定めた。

(1)　多様なかかわり合いの場を設定する。
(2)　よりよいかかわり合いができるように支援を工夫する。
(3)　自分自身を振り返ったり，互いに評価し合ったりする場や方法を工夫する。

(2)　第二分科会

本分科会では，育てたい児童像を，「自分の考えをもち，主体的に学習に取り組む子」，「他者とかかわり合い，互いのよさを共感し，高め合える子」と設定した。このような児童を育てるために，以下の２点の支援について工夫することが大切であると考えた。

◎児童自らのもっている力を発揮し，考えを振り返る学習の支援の工夫
◎互いに学び合い，励まし合う学習の支援の工夫

(3)　第三分科会

本分科会では，児童一人一人が主体的に学び，互いに高め合っていこうとする学習活動の展開のために，次のような授業を考えて，研究を進めた。

(1)　一人一人のよさが発揮されるよう学習形態を工夫する。
(2)　磨き合い，支え合うことができるよう，人とのかかわりがもてる場を設定する。
(3)　児童主体の豊かな学習活動が展開できるよう，横断的・総合的な視点に立った学習を目指して，教科・領域の関連を図った学習を構成する。

なお，研究を進めるに当たっては，以下のことに留意した。

(1)　授業研究を通して，具体的な指導の改善を図る。
(2)　共通の研究主題を基に，各分科会が具体的な研究を進める。
(3)　先行研究の成果を踏まえて，研究を進める。

## 3. 研究構想図

**児童の実態を生み出す背景**

- 物の豊かさ・過大な期待
- 過保護と放任・情報過多
- 多様な価値観・規範が少ない
- 集団での遊びの減少
- 少子化・直接経験の減少
- 人とのかかわりの減少
- 機械化・ゆとりの減少　等

↓

**児童の実態**

- 知識が豊富　・個性が豊か　・人とのかかわりが不十分
- 順応性がある　・学習意欲が乏しい
- 好奇心が旺盛　・倫理観が乏しい
- 機械に強い　・自己肯定力が弱い
- 自己中心　・耐性がない　・向上心・探求心が乏しい
- 判断力　・行動力が乏しい　・依存心が強い　等
- 社会性が乏しい

↓

**児童に付けさせたい力**

- 感受性・創造力・思いやり・たくましさ，向上心
- 何事にも進んで取り組む力（チャレンジ精神）
- 主体的に学ぶ力・忍耐力・自信・協調性
- 自己認識力・自己判断力・自己解決力

↓

**生きる力をはぐくむ教育活動の研究**

**都の基本方針**

①人権尊重教育の推進
②生涯教育の振興
③児童・生徒の健全育成の推進
④個性を生かす学校教育の充実
⑤多様な学習機会を提示する社会教育の充実
⑥文化・スポーツ・レクリェーションの振興

**社会の要請**

○豊かな人間関係の育成
○変化の激しい社会に対応できる力
○自己教育力の育成
○個性尊重の教育の推進
○文化と伝統の尊重と国際理解
○いじめ・不登校・中途退学の解消

**共通研究主題の分析**

**第一分科会**

これからの変化の激しい社会を「生きる」上で大切なことは，まわりの人と積極的にかかわり，互いのよさを認め合ったり，足りないところを補い合ったりしながら協調し共に高め合う能力を身に付けさせることである。人とかかわる力は，一人一人が自分らしさを発揮し，その違いをよさとして生かし合える力であり，こうした力が育っていけば，よりよく生きようとする人間を育てる手立てとなる。

**第二分科会**

児童の生きる力をはぐくむためには，初めて遭遇するような場面でも，自分で課題を見付け，自ら考え，自ら問題を解決する資質や能力を培うことが重要である。そのためには，一人一人が自分のよさや力を自覚し，自信をもち，他者とのかかわりの中で学び合い，高め合う学習の展開を工夫していくことが大切である。そこで，このような学習活動を支える教師の支援の在り方が重要になってくる。

**第三分科会**

「生きる力」は，「いかなる場面に遭遇しても，課題を発見し，自分の力で解決しようとする資質や能力」と考えた。

まず，全人的な力である。この力を育てるために，横断的，総合的な視点に立った学習の在り方について研究を進めることにした。

また，この力は，多面的な見方や考え方を知り，互いに教え合い，認め合う人と人とのかかわりを通して高まる。互いに磨き合い支え合うことで，子供達は，さらに輝き，次の課題に挑戦しようとするようになると考えた。

こうした学習を支える教師の支援の在り方についての研究も必要になる。

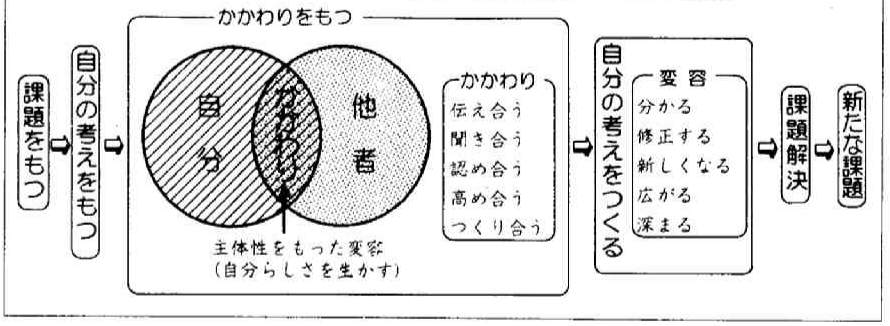
## 人と人とのかかわりの中で共に高まり合える児童の育成

**育てたい児童像**

積極的に人とかかわり，他者と協調し，共に高まり合おうとする児童

**研究の視点**

①多様なかかわり合いの場を設定する。
②よりよいかかわり合いができるように支援の方法を工夫をする。
③自分自身を振り返ったり，互いに評価し合ったりする場や方法を工夫する。

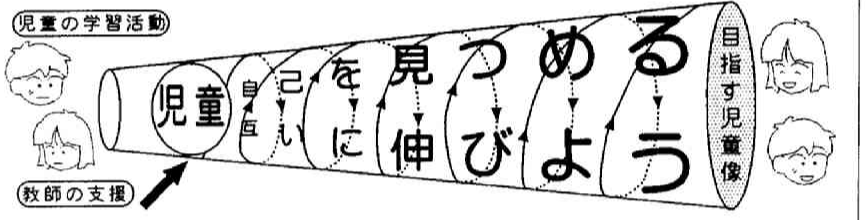



## 自己を見つめ，互いに伸びようとする児童を育てる支援の在り方

**研究仮説と育てる児童像**

本分科会では，育てたい児童像を「自分の考えをもち，主体的に学習に取り組む子」，「他者とかかわり，互いのよさを共感し，高め合える子」と設定した。このような児童を育てるために，以下２点の支援を工夫することが大切であると考えた。

◎児童自らのもっている力を発揮し，考えを振り返る学習の支援の工夫
◎互いに学び合い，励まし合う学習の支援の工夫




## 一人一人がさらに輝くために ―磨き合い，支え合う児童の育成―

**めざす児童像と教師の支援**

◎よりよく問題を解決する児童
◎人とのかかわりを大切にする児童

| 児童の活動 | | 教師の支援の在り方 | |
|---|---|---|---|
| | | 条件整備上の支援 | 指導上の支援 |
| 磨き合う | ◆活動の場<br>◆学習活動 | ○活動の場の多設<br>○相互評価の活用<br>○学習の場の工夫<br>○授業時間の弾力化 | ○グルーピングの工夫<br>○賞賛，励ましなど<br>○学習カードや学習資料の工夫<br>○情意面の育成・たくましい心 |
| 支え合う | ◆学習活動 | ○学習材の選択<br>○学習の場の工夫<br>○ＴＴ．など形態の工夫<br>○横断的，総合的な視点に立った学習の導入<br>○体験的活動内容の工夫<br>○学習活動内容の工夫<br>○活動時間の確保<br>○自己評価の活用 | ○個に応じた目標設定<br>○児童の興味・関心に合った学習材の選択<br>○情意面の育成<br>・思いやりの心<br>・認め合う心<br>・尊重し合う態度 |

# Ⅲ　第　一　分　科　会

## 人と人とのかかわりの中で，共に高まり合える児童の育成

### 1.　分科会研究主題の設定理由

児童は，家庭や学校，地域といった様々なかかわりの場をもっている。ところが物質の豊かさ，生活の便利さが追求されるにつれて，人と人とのかかわりが少なくなり，少子化や核家族化の傾向がこれに拍車をかけている。このようななかで，「人とうまくかかわれない」「人とかかわろうとしない」児童が増えてきた。社会性の不足，自立の遅れ，いじめや登校拒否など，今日抱えている学校教育の問題も，人間関係の希薄さが原因となっていることが多いと思われる。生活体験，社会体験，自然体験の減少ともあいまって，児童のたくましく生きる力が弱まってきている。

本分科会では，「生きる力」をはぐくみ，個が「生きる」ためには，人と積極的にかかわり合い，互いに高まり合える力が重要と考えた。周りの人と積極的にかかわり，互いのよさを認め合ったり足りないところを補い合ったりしながら，協調し，共に高め合う能力を身に付けさせることは，これからの変化の激しい社会を生きる上で大切なことである。人とかかわる力は，一人一人が自分らしさを発揮し，その違いをよさとして生かし合える力であり，「他者と共に生きる力」である。こうした力が育っていけば，様々な学校教育の課題を解決し，よりよく生きようとする人間を育てる手立てとなると考えた。

このような考えから，本分科会では，「人と人とのかかわりの中で，共に高まり合える児童の育成」を研究主題に設定し，研究を進めることにした。

### 2.　研究の視点

本分科会では，めざす児童像を「積極的に人とのかかわりをもち，他者と協調し，共に高まり合おうとする児童」と設定した。このような児童を育成するためには，自分の考えをもち互いの考えや思いを知ったり受入れたりしながら，かかわりの中で高め合っていくことが必要であると考え，研究の視点を次のように定めた。

**1.　多様なかかわり合いの場を設定する。**
**2.　よりよいかかわり合いができるように支援の工夫をする。**
**3.　自分自身を振り返ったり，互いに評価し合ったりする場や方法を工夫する。**

### 3.　研究の内容

「生きる力」をはぐくむには，自ら課題をもち，解決していく力を育てることが必要である。それは，自分の力で獲得するだけでなく，他者とのかかわりをもつことにより，自分の考えを修正しながら深めたり広げたりすることができ，より確かな力となる。そのためには，かかわりをもってよかったという思いを十分にもたせていくことが大切である。

また，かかわりをもつということは，人間関係の築き方を学ぶことである。ときには，考えの違う両者が対立し合うこともある。その中で，互いのよさに気付き，違いをも受け止め

ていくことを学ぶのである。そして，よりよい解決に向かって自分の考えを変え，つくりあげていくことのすばらしさを知るのである。様々なかかわりを数多く経験させていくことにより，よりよい考えを作るための思考力・判断力や向上心，「共に生きる」ための協調性や社会性を身に付けていくのである。これらは，変化の激しいこれからの国際社会に人として，強く優しく生きていくための力を生み出すものである。

こうしたかかわりを具現化するために，以下のことが必要であると考えた。

(1) 本分科会でめざすかかわり

① 目的のあるかかわり

人とよりよくかかわるには，かかわるための目的を明確にすることが大切である。そうすることにより，何のために（目的），だれと（対象），どこで・どんなときに（場・機会），どのように（方法），かかわりをもつのかを意識することができ，人と積極的にかかわろうとしたり，かかわりを生かそうとしたりする態度を育てることができる。

② 変容のあるかかわり

児童の考えは，情報や意見を交換することにより，考えが深まったり広がったりし，変容したりしていくものと考える。ここでの変容は，①自分らしさが残っている。②相手のよさを認め，受け入れる謙虚さがある。③考えが変わったことに価値がある，ものであり，主体的判断を伴ったものである。こうした変容のあるかかわりをしていくには，自分の考えをしっかりもったうえで他者とのかかわりをもち，再び自分を見つめ直すことが必要である。

(2) 研究の視点に関する具体的な内容

① 多様なかかわり合いの場の設定

・さまざまなかかわり方を体験できるようにする。
（話合い，対話，見合う，手紙，電話，インターネットなど）
・学級や学校内にとどまらず，家庭や，地域の人など広い範囲のかかわりをもてるようにする。

② よりよいかかわり合いのための支援

・自由に発言でき，よさを認め合う温かな学級づくりをする。
・自分の考えをもつための時間を十分にとる。
・自分の考えを伝える機会を増やす。
・見合ったり話し合ったりする時間を意図的にとる。
・話合いの方法やマナーを指導する。
・直接体験を重視し，児童自ら活動する場と時間を十分にとる。
・課題に応じた学習形態やグルーピングを工夫する。

③ 自分自身を振り返ったり，互いに評価し合ったりする場や方法の工夫

・自分の変容に気付いたり，次への意欲付けをしたりするための自己評価を継続して行う。
・励まし合い，高め合うための相互評価を授業に位置付ける。
・かかわりや個人の変容を見取る工夫をする。
・評価の観点を児童に分かるように示す。

## 4. 実践事例　（第５学年　体育）

(1) 単元名　器械運動　「マット運動」

(2) 単元について

器械運動の特性については次のようなことがあげられる。

- 技ができるようになったり，できばえを高めたりすることによって，楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。
- 自分の力に合っためあてをもって，進んで練習する態度が養える運動である。
- 仲間との共同的な練習によって，協力する態度や動きのよさ・美しさを見分ける態度が養える運動である。
- 安全に対する主体的な態度を育てる上で効果的な運動である。

マット運動においては，自分のできる技を繰り返したり，２，３の技を組み合わせたりして，調子よくできるようにするとともに，新しい技を加え，それらができるようにし，楽しさを味わわせるように学習を進めなければならない。学習を進める上で，児童が今もっている力を知り，学習の進め方や方法・内容を理解できるようにし，自分の課題を見極め，課題に合った場を工夫し，課題に向かって取り組めるように学習を展開していくことが大切であると考える。同時に，友達との教え合いや励まし合いを通して，お互いのよさが認め合えることも重要である。自分が認められたとき，児童は自分に自信をもち，さらに意欲的に主体的に学習に取り組むものと考える。

(3) 児童の実態

事前に調査した結果から，体育の学習を好む児童がほとんどであった。しかし，マット運動についての関心や意欲はあまり高くなかった。また，「できない技ができるようになった時」児童は最も楽しいと感じており，次いで，「友達や先生にほめられた時」であった。マット運動の学習で教え合ったことがある児童は，約半数であった。技のポイントを意識して運動したり，練習方法を工夫して学習した経験は少ない。しかし，新しい技ができるようになりたいと願う児童は大変多かった。

(4) 単元のねらい

| | |
|---|---|
| 関心<br>意欲<br>態度 | ・マット運動の学習に関心をもち，進んで学習に取り組むことができるようにする。<br>・友達と協力し，励まし合ったり，教え合ったりして運動することができるようにする。<br>・運動する場所や器具・用具に気を付け，安全に運動することができるようにする。 |
| 思考<br>判断 | ・学習の方法や内容を知り，見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。<br>・自分に合っためあてをもち，学習情報を活用しながら運動することができるようにする。 |
| 技能 | ・自分に合った技を選び，繰り返したり，組み合わせたりして運動することができるようにする。<br>・新しい技がある程度正確にできるようにする。 |

(5) 研究主題との関連

マット運動に対する思いや願いが一人一人異なり，また，技の達成度も様々である。課題に取り組む中で，友達とかかわり合いながら学習を進めることにより，互いを理解し，認め合い，励まし合い，教え合う態度が培われるものと考える。

そこで，以下のような工夫を試みた。

＜視点①＞　多様なかかわり合いの場を設定する。

ア．「つかむ」段階では，技のポイントカードを活用し，互いに見合い，自分や友達がどの程度できるのか確かめるようにした。

イ．課題解決の手がかりとなる練習カードを用意し，グループで練習が工夫できるようにした。

ウ．学習過程の「高める」段階を『学習①共通技に取り組む』『学習②選択技に取り組む』とした。学習①では，みんなが同じ技に取り組むことにより，互いに教え合う場面が多くなり，学習②では，挑戦したい，もっと上手になりたいという児童の思いが生かせるようにした。

＜視点②＞　よりよいかかわり合いができるよう支援の工夫をする。

ア．グループでの教え合いを活発にするために，小グループで学習を進めることにした。児童の関心・意欲・態度，思考・判断，技能，人間関係の観点に配慮した。

イ．学習カードをもとに，一人一人の学習内容や心情を把握し適切な支援を行うようにした。

ウ．友達から教えてもらったことやほめてもらったことを「みんなの言葉」として掲示し，教え合いに生かすようにした。

エ．動きのよくなった児童や，がんばっている児童を紹介し，技の高まりや友達の動きを見る目を全体に広げるようにした。

＜視点③＞　自分自身を振り返ったり，お互いに評価し合ったりする場や方法を工夫する。

ア．ＶＴＲを活用し，自分や友達の動きを見合ったり，技のできばえを確認できるようにした。

イ．技のポイントカードやステップカードを活用して，相互評価を活発に行うようにした。

ウ．個人カードによる自己評価活動を通して，自己を見つめ振り返ることにより，自己の変容に気付き，次への意欲がもてるようにした。

(6) 学習過程　器械運動　「マット運動」　（配当時間　45分×７）本時　５／７

<table>
<tr><td colspan="2">回</td><td>1</td><td>2</td><td>3　～　7</td></tr>
<tr><td colspan="2">段　階</td><td colspan="2">つ　か　む</td><td>高　め　る</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ね<br>ら<br>い</td><td>関心<br>意欲<br>態度</td><td colspan="3">○マット運動の学習に関心をもち，進んで学習に取り組もうとする。<br>○友達と協力し，励まし合ったり，教え合ったりすることができるようにする。<br>○運動する場所や用具に気を付けることができるようにする。</td></tr>
<tr><td>思考<br>判断</td><td colspan="2">○学習の方法，内容や見通しをもつことができるようにする。<br>○めあてをもって学習に取り組むことができるようにする。</td><td>○めあての達成をめざして運動の仕方や練習方法を工夫することができるようにする。<br>○技のポイントを理解し，互いに教え合いながら学習が進められるようにする。</td></tr>
<tr><td>技能</td><td colspan="2">○自分にあった動きで，回転，支持，バランスができるようにする。<br>○技のポイントをつかみ新しい技に挑戦できるようにする。</td><td>○ポイントを意識して，新しい技がある程度正確にできるようにする。<br>○できる技を繰り返したり組み合わせたりすることができるようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">学<br>習<br>活<br>動</td><td>○学習の進め方を知り，見通しをもつ。<br>○学習の方法，内容を知る。<br>○学習する技を知る。<br>○学習情報の活用の仕方を知る。<br>○めあてのもち方，めあての解決の仕方を知る。<br>○準備運動をする。<br>○マットを準備し，補助運動をする。<br>○自分ができる技，できそうな技を調べる。<br>・グループで互いに見合い，できぐあいを確認する。<br>○本時を振り返り，技のできばえを学習カードに記入する。<br>○次時のめあてを立てる。<br>○整理運動をする。<br>○マットを片付ける。</td><td>○本時の学習内容を知る。<br>○準備運動をする。<br>○マットを準備し，補助運動をする。<br>○前時に学習した技に取り組み，できばえをグループで見合い確認する。<br>○できそうな技を選び，練習方法を知る。<br>・練習カードをもとに，できるようになるためのポイントを教え合ったり，練習の場を工夫したりして取り組む。<br>○本時を振り返り，技のできばえを学習カードに記入する。<br>○大まかな学習計画を立てる。<br>○次時のめあてを立てる。<br>○整理運動をする。<br>○マットを片付ける。</td><td>○本時の学習内容を確認する。<br>○準備運動をする。<br>○マットを準備し，補助運動をする。<br>○学習①《共通の技（単技）》に取り組む。<br>・自分のめあての達成に向けて学習する。<br>・お互いの技を見合って，教え合い励まし合いながら練習する。<br>・必要な学習情報を活用して練習する。<br>・一つ一つの動きが正確になるようにする。<br><br>○学習②《選択の技（組み合わせ，単技）》に取り組む<br>・自分のめあての達成に向けて学習する。<br>・お互いの技を見合って，教え合い励まし合いながら練習する。<br>・練習の場を活用したり，お互いに補助し合ったりして練習する。<br>・必要な学習情報を活用して練習する。<br>・動きのよくなったところを見付け，よさを認め合う。<br>○本時を振り返り，技のできばえを学習カードに記入する。<br>○次時のめあてを立てたり，学習計画の修正をする。<br>○整理運動をする。<br>○マットを片付ける。</td></tr>
<tr><td colspan="2">教<br>師<br>の<br>支<br>援</td><td colspan="2">○事前に意識調査を行い，児童の関心や意欲の状況をつかむ。<br>○学習の進め方，方法，内容をわかりやすく示す。<br>○学習する技を学習カードやＶＴＲ，示範で示す。<br>○技のできばえがわかるように技のポイントを示す。<br>○友達と見合い，励まし合いながら技を調べるように助言する。<br>○よい動きや言葉かけをした児童を賞賛する。<br>○用具や場の安全に気を付けて運動するよう指示する。<br>○学習計画は取り組みながら修正してよいことを知らせる。</td><td>○自分に合っためあてをもつように助言する。<br>○めあてに合った場や器具を選択し取り組むよう助言する。<br>○技のできばえを調べられるように，学習カードやＶＴＲを活用するように助言する。<br>○友達と技を見合い，教え合い励まし合いながら学習するように助言する。<br>○一つ一つの技が正確にできるように助言する。<br>○学習への取り組み方や技の高まりなど，少しでもよくなったところを賞賛し，主体的な学習への意欲を高める。<br>○友達のよさを進んで見付け，互いに認め合えるようにする。<br>○用具や場の安全に気を付けて運動するよう指示する。</td></tr>
</table>

(7) 考察

・児童が自ら学習計画をたて，見通しをもって学習を進めたことで，意欲的に運動に取り組むことができた。

・技のポイントカードやステップカードは，自分の力を知ったり，友達の動きを見たりする上で有効であった。

・小グループによる教え合いが活発に行われ，積極的にかかわりをもつことができた。また，友達のよくなった動きを見付けてほめたり，励ましたりする態度が見られた。

・友達のよさを見付け，認め合う活動を重視したことで，学級の雰囲気がよくなり，人間関係が豊かになった。

・他のグループとのかかわりが不十分であった。かかわりがさらに広がる工夫が必要である。

・個々の技能を高めたり課題を解決したりするためのより質の高いかかわり合いができるよう支援を工夫する必要がある。

## 5. 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究の成果

① 「自分の考えをもつための時間を十分にとる」,「児童自ら活動できる時間を確保する」などの支援により，自分の課題を解決するために積極的にかかわり合おうとする姿が見られた。

② 多様なかかわり合いの場を設定することによって様々な人とのかかわりが生まれ，学級や学年の友達とのかかわり方も豊かになった。自主的，意欲的にかかわりをつくっていく姿も見られ，生活の範囲が広がり，課題解決の方法が豊かになった。

③ よりよいかかわり合いのための支援をすることによって，かかわり合いの質が高まり一人ではできないことや気付かないこと，時間がかかること，深められないこと，楽しめないことなどが解決され，共に高まり合うことができた。

また，かかわり合いの中で新たに生まれた課題に対して，解決への工夫や努力が自主的にされるようになり，協調する態度も育った。

④ 人との違いやよさを認め合う活動を重視したことにより，児童相互のかかわりが温かく共感的なものになった。

⑤ 自己評価，相互評価を継続的に行うことによって，自己の変容に気付き，次への意欲につながった。

(2) 今後の課題

① よりよいかかわり合いをすることができたが，一人一人の力を高めたり，課題解決をしていくためのより質の高いかかわり合いができるような支援の方法を考えていく必要がある。

② 目に見えないかかわりについて，学習過程の中でどのように見取っていくか，さらに研究していく必要がある。

# Ⅳ　第　二　分　科　会

## 自己を見つめ，互いに伸びようとする児童を育てる支援の在り方

### 1.　分科会研究主題の設定理由

先行き不透明な今日の社会において，一人一人の児童に自らの進む方向を切り開き，生き抜くための資質や能力をはぐくむことは，重要な教育課題である。

本分科会では，「生きる力」を一人一人の児童に対して育てたいものと他者とのかかわりのなかで育てたいものの２点に焦点を絞って考えた。具体的には，下記のとおりである。

①　「自分の考えをもち，主体的に課題に立ち向かい，柔軟に対応できる力」

②　「他を思いやり，互いに伸びようとする力」

このような力を学習活動の中で育てていくためには，教師の支援が重要である。

そこで，「自己を見つめ，互いに伸びようとする児童を育てる支援の在り方」という主題を設定し，研究を進めることにした。

本分科会主題の「自己を見つめる」「互いに伸びようとする」とは，以下のように考えた。

| 「自己を見つめる」とは | 「互いに伸びようとする」とは |
|---|---|
| ・自分のよさや力を自覚できること<br>・自分の知識や経験を振り返ることができること<br>・自分の課題を自覚できること<br>・集団の中の自分の存在を自覚できること<br>・課題に対して，前向きに取り組もうとする気持ちをもつこと | ・かかわりをもち，その中で自分の考えを深め，高めること<br>・他者の言動をしっかり見聞きすること<br>・わかりやすく表現すること<br>・他者と比べることができること<br>・他者を認め，よさを見付けること |

### 2.　研究のねらいと仮説

本分科会では，目指す児童像を「自分の考えをもち，主体的に学習に取り組む子」「他者とかかわり合い，互いのよさを共感し，高め合える子」と設定した。このような児童を育てるために，以下の２点の支援を工夫することが大切であると考えた。

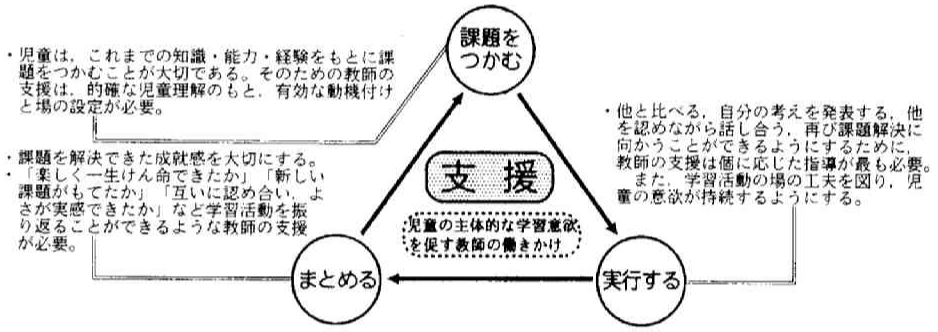
◎　児童自らのもっている力を発揮し，考えを振り返る学習の支援の工夫

◎　互いに学び合い，励まし合う学習の支援の工夫

## 3. 研究の内容

### (1) 学習過程

### (2) 支援について




### (3) 支援の実際

仮説に述べた2つの支援を，各教科や各時間で繰り返していくことにより，児童は自分の考えをもち，主体的に学習に取り組み，互いのよさを共感し，高め合えることができると考えた。

<u>①児童自らのもっている力を発揮し，考えを振り返る学習の支援の工夫</u>

児童自らの生活経験や知識から，新しい課題に取り組み，自分なりの取り組み方や計画を立てられるように課題をつかむ段階に支援を取り入れた。実行する段階でも常に自分の考えを発表したり，振り返る過程を取り入れた。

<u>②互いに学び合い，励まし合う学習の支援の工夫</u>

自分の考え，思いをみんなに投げかけたり，他の考えを聞いたり，互いに相談し，助言し合いながら学習を進めることにより，自分と友達との共通点や違いに気付く。そして，共通の問題意識や心情をもつことができる。これらの活動を通して互いによさを認め合い，相互理解が深まっていくと考えた。

## 4. 実践事例（第５学年　学級活動）

(1) 題材名　『目の不自由な人とわたしたち』

「私たちにできること」～共に生きる社会をめざして～（ボランティア学習）

(2) 題材について

児童は，障害のある人に出会ったとき，どうしてよいか迷ったり，時には避けてしまったりすることがある。それは，障害のある人とのかかわりが少ないことや，障害に対する認識が十分できないことが要因として考えられる。

そこで，障害のある人についての理解を深め，自分にできることを考える活動を通して自分の力を生かしながら様々な人と共に生きていこうとする気持ちを育てたいと考えた。

視覚障害は，擬似体験をすることにより，児童にも比較的とらえやすいと思われる。体験を通して得られた一人一人の思いを全体に広げ，児童の積極的な活動を促していきたい。知りたいことについて障害のある人やヘルパーさんから直接話を聞く時間を設定することもそのひとつである。相手を尊重した心遣いの在り方を知り，障害のある人に対する理解が，より一層深まることを期待した。

(3) 児童の実態

障害のある人とのふれ合い体験についてたずねたところ，半数近くの児童が話したり，遊んだりしたことがあると答えた。そこで本題材が比較的身近なこととしてとらえることができるのではないかと考えた。

本学級には，アトピー性皮膚炎のため集中して学習に取り組めない児童や，情緒が不安定の傾向を示す児童がおり，４月当初は二人が仲間に入りづらい雰囲気が見られた。そのため，アトピーについての説明や本人のつらさを話したり，互いに楽しくふれ合うようなゲームを授業の合間に取り入れたりしてきた。現在は二人を励ましていこうとするようになってきた。思いやりの心は日常生活における教師と児童，児童相互の関係を基盤として育つものと考える。その点をふまえた上で本単元の学習を進めた。

(4) 題材のねらい

① アイマスクをした歩行体験や手引きの擬似体験を通して，目の不自由な人への理解を深めるとともに，基本的な支援の仕方と心構えを知らせる。

② ①を通して，人の役に立つことをする意識を高め，相手のことを思いやり，親切にする心情を育てる。

(5) 主題との関連

① 題材（ボランティア学習）設定の理由

人が社会をたくましく生きていく上で，生きる目的（生きがい）をもつことは大切である。生きがいには，大きく二つのことがあると考える。一つは，自分の可能性を伸ばし，夢を現実すること。二つに，他者とのかかわりにおいて自分の力を生かしていくことである。ボランティア学習は，後者に視点をおいたものである。ボランティアについて「人間同士，よりよく生きることへの実践であり，物心両面から誰もが人間として尊重された生き方ができるよう，生活の条件や環境を整えていくこと」と考えると，小学校におけるボランティア学習はその基礎をつくるものとしてとらえることができる。

様々な人の立場を理解し，人に役立つ力を得たとき，児童は自信をもつことができるであろう。自信をもつことができれば，さらに目標をもって挑戦しようとする意欲も高まる。それが児童の『生きる力』になるものと考え，本題材を設定した。

② 分科会の仮説とその手立て

| |
|---|
| 自分のもっている力を発揮し，互いに学び合い，励まし合う学習の場の工夫 |

(ｱ) 体験の場の設定

児童の理解を深めるために，目の不自由なことによる苦労の一端を身をもって感じさせたい。そこで，アイマスクによる歩行体験をもつことにした。

はじめに，平面を目隠しで歩くことによって，手探りの不安な気持ちを実感させる。次に，目の不自由な人にとって歩きにくい状況を設定した難所コースを体験させる。友達とペアをつくり，交互に手引きし合うことで，目の不自由な人の視点に立つことができるようにしたい。難所コースは町の中を想定し，溝のある段差・障害物（自転車）・狭い通り・段階・水たまり（画用紙で作成）を配置した。

(ｲ) 発表による共感の場の設定

ここでの共感は，一つは目の不自由な人に対する共感であり，もう一つは同じ体験をもった友達に対する共感である。自分が感じたことや考えたことを発表し合うことによって児童の視野が広がり，目の不自由な人に対する理解がより深まると考えた。

また，体験の場における友達とのふれ合いと意見の交換をすることで，互いを認め合おうとする態度を育てていきたい。意見の交換を促すために，難所コースを体験し合いながら気付いたことを書き込めるようなワークシートを用いることにした。

(ｳ) 社会福祉協議会の協力を得る

第１時を通して，児童がもっと知りたいと思ったことなどについて，目の不自由な方とヘルパーさんから実際に話を聞く時間を第２時に設けた。障害のある人の実態を知るための資料や，白杖など，地元の社会福祉協議会の協力を得ることによって学習がより深まるものと考える。

(ｴ) ボランティア学習に関する掲示コーナー

本活動をきっかけに，児童の関心に応じて学習に広がりをもてるようにしたい。そのために，教室の掲示板に，児童が調べてきたことを発表できるコーナーの設置，点字，盲導犬，他の障害に関する本などを紹介する。

(6) 活動計画

○ 目の不自由な人の立場を体験し，手引きの仕方を考えよう。……１時間（本時）

○ 目の不自由な人の生活や願いを知ろう。……１時間

(7) 本時の指導

① ねらい

・アイマスクを使った歩行体験を通して，目の不自由な人への理解を深める。

・目の不自由な人の気持ちを大切にした手引きの仕方を友達とともに考えることができる。

② 展 開

| 学習過程 | 主な発問 ○学習活動・予想される児童の反応 | ○支 援 ・留意点 |
|---|---|---|
| 課題をつかむ | これは何でしょう。<br>・杖だ ・見たことがある<br>・目の不自由な人が歩くときに使うもの<br>この杖は，何のために使うのでしょう。<br>・危ないものがないか探る ・目立つように<br>・自転車や歩行者に知らせるため | ○白杖を提示し，学習への関心を高める。<br>○色に着目させることによって，目の不自由な人の安全な歩行と自分とのかかわりに気付くようにする。 |
| 自己を見つめる | 目が不自由な人の立場になって，白い杖を持って歩いてみよう。<br>○ペアで平らな所を目隠しで歩行する。<br>○感想を発表する。<br>・こわかった ・目の不自由な人は大変だ | ・10m程度の距離を友達とぶつからないように間隔をとってまっすぐに歩くようにする。<br>○感想を受け止め，目の不自由な人の不安な心情に共感できるようにする<br>○声をかけ合ったペアを賞賛する。 |
| 課題追を究する | 目の不自由な人が，安心して歩けるようにお手伝いしよう。<br>○ペアで，難所コースを目隠しで歩行する。 | ○「安心して歩けるようにする」ことを目当てとし，相手を思いやる態度をもてるようにする。<br>・全部回る必要はない。競争にならないようにする。 |
| 知識が再さ編れ成る | ○自分で考えた声のかけ方やお手伝いの仕方をコース図に書き込んでいく。<br>○感想や気付いたことなどを発表する。<br>・階段では先に声をかけられると安心<br>・急に手を引っ張られるとこわい | ○よい声かけや相手を尊重した接し方をしているペアを賞賛する。<br>○目の不自由な人の視点からとらえるようにする。<br>○よい声かけや手引きの仕方をしたペアを紹介する。 |
| 自見己つをめる | ○本時の感想を書く。 | ○今日学習して気付いたこと，感じたことや，もっと知りたいことを書くようにする。 |

③ 評 価

・目の不自由な人についての理解が深まったか。

・相手を思いやる声かけや手引きの仕方を考えることができたか。

(8) 考　察

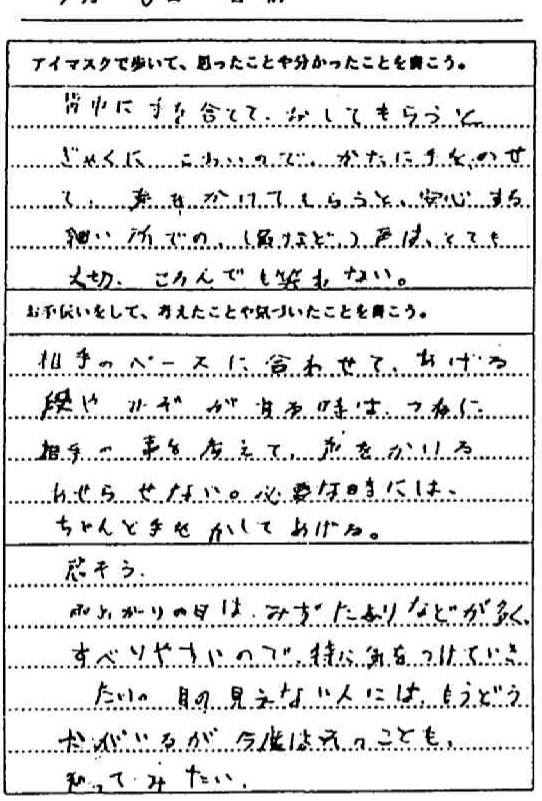
・　初めてアイマスクをして歩いたときの不安な気持ちを全員が感想の中で述べていた。難所コースで自分なりの考えをもつ過程（第１時）と正しい方法を知り，日常の場で確かめる過程（第２時）で，児童は目の不自由な人に対する理解を深め，相手の身になって手引きすることの大切さに気付くことができた。

・　授業後，手話に興味をもって友達と簡単な会話を楽しんだり，市のボランティア教室に家族と参加する児童もおり，関心の高まりが見られた。

・　社会福祉協議会には，積極的な支援をいただいた。指導計画を立てる段階から共同で行うことが可能であれば，さらに活動に広がりをもたせることができると考えられる。

・　本時は二人一組で手引きし合ったが，活動しながらの意見交換という点においては，三人以上の組合せも考えられる。

　グルーピングについては，さらに検討していきたい。



7月　5日　名前

| アイマスクで歩いて、思ったことや分かったことを書こう。 |
| --- |
| 背中にすを合てて、おしてもらうと、じゅくに、こわいので、かたにすをのせて、手をかけてもらうと、安心する。狭い所での、(見えないと)こわ、そうは、とても大切。こわんでも笑わない。 |
| お手伝いをして、考えたことや気づいたことを書こう。 |
| 相手のペースに合わせて、あげる段や、ゆっくりあるくは、つねに相手の事を考えて、力をかしてわすれない。必要な時には、ちゃんと手をかしてあげる。 |
| 感そう。<br>ぼうかいの日は、みずたまりなどが多く、すべりやすいので、特に気をつけていきたい。目の見えない人には、もうどうけんがいるが、今度は、それのことも、知ってみたい。 |

## 5.　研究のまとめと今後の課題

(1)　研究の成果

① 児童自らもっている力を発揮し，考えを振り返る学習の支援の工夫について

・　児童が自らの生活経験や知識を駆使して，新しい課題に取り組むことができるようになった。

・　自分なりの取り組み方が分かり計画を立てることができるようになってきた。

② 互いに学び合い，励まし合う学習の支援の工夫について

・　他者と進んでかかわることができるようになってきた。

・　互いのよさを認め合うことができるようになり，相互理解が深まってきた。

(2)　今後の課題

①　児童理解をより一層深め，個に応じた支援をさらに工夫していく。

②　かかわりをより深められるように，個々の表現能力を高めていく。

③　より意欲がもてるように，学習教材の選択や課題提示の方法を工夫していく。

# V　第三分科会

## 一人一人がさらに輝くために
## －磨き合い，支え合う児童の育成－

### 1.　分科会研究主題の設定理由

本分科会では，「生きる力」を『いかなる場面に遭遇しても，課題を発見し自分の力で解決しようとする資質や能力』と考えた。そこで，児童相互のかかわりが希薄になっている現状を踏まえ，磨き合い，支え合うことができる児童を育てるために次のように考えた。

心と心のふれ合いを土台とし，多面的な見方・考え方を知り，互いに教え合い・認め合うというような人と人とのかかわりを通して，児童は，相互のよさを知り，互いに高まり合うことができる。そのようななかで，自分の課題に向かい，自分の思いや願いを実現し，豊かに自己発現できたとき，成就感や満足感を味わうことができる。そして互いに磨き合い，支え合うことで，人と人とのかかわりがより深まり，一人一人がさらに輝いていく。このことにより，「生きる力」の大切な柱の一つである「次の課題に挑戦していこうとする前向きな姿勢」が育つと考えた。

そこで，本分科会では，上記の分科会研究主題を設定し，生きる力をはぐくむ教育活動の研究を進めることにした。

### 2.　研究のねらいと仮説

本分科会では，目指す児童像を「よりよく問題を解決する児童」「人とのかかわりを大切にする児童」と設定し，このような児童を育てることにより，互いに磨き合い，支え合う豊かな人間関係が生まれると考えた。

そして，そのための支援の在り方として，次のような仮説を設定した。

研究の仮説

以下の二点の支援の工夫をすることによって，一人一人が主体的に学び，課題に向かい互いに高まり合っていこうとする児童が育つと考えた。

○自分のよさを発揮しながら，主体的に学習するための支援の工夫

○友達のよさや自分の足りないところにも気付き，互いに協力して学習するための支援の工夫

### 3.　研究の内容

一人一人が主体的に学び，互いに高め合っていこうとする学習活動を展開するために，次のような授業を考えて，研究を進めてきた。

(1)　一人一人のよさが発揮されるよう学習形態を工夫する。
　（体験的学習，課題解決学習を重視する。）

(2)　磨き合い，支え合うことができるよう人とのかかわりがもてる場を設定する。
　（話し合う，教え合う，助け合う，競い合う，認め合う，励まし合う場を設定する。）

(3)　児童主体の豊かな学習活動が展開できるよう，横断的・総合的な視点に立った学習を目指して教科・領域の関連を図った学習を構成する。

## 4. 実践事例①（第５学年　国語科・学級活動）

(1) 題材名　　「考えよう！これからの学級生活」

(2) 目　標

○ディベートをすることにより，学級の一員としての自覚を高め，互いに協力し，互いに高め合う心を育て，これからの学級生活についての考えを深めることができるようにする。　＜学級活動＞

○ディベートを通して，自分の考えていることを相手にしっかりと伝える「話す力」と，他人の考えに耳を傾け自分の中に受入れる「聞く力」を育てる。　＜国語科＞

(3) 研究主題との関連

ディベートを経験すると，どんな論題にも賛成，反対の議論があることを実感する。一つの考えに固執することなく，自分の考えとは全く反対の考えがあって当然とし，その反対の立場で理由を考えることによって，発想が豊かになり，他人の意見に耳を傾けるようになり，冷静に議論ができるようになる。このディベートがもたらす思考は，変化が激しく潮流の速い時代になくてはならない思考となっている。情報が伝達するスピードが速くなり，多様な価値観が生まれ，これまでの慣習，経験，価値観が役立たないことも出てくる。そんな時代には価値観から考え直す思考，バランスのとれた発想が必要である。これからの時代を生きていく児童にとって，ディベートは生きる力を育むために有効な教育活動である。

(4) 分科会仮説とその手立て

<u>仮説1.　自分のよさを発揮しながら，主体的に学習するための支援の工夫</u>

・教科・領域を関連させた学習をとり入れる。
・教室ディベートにふさわしい論題を選択する。
・児童自らの考えにより論題を選択する。
・感情的にならない。相手の尊厳を傷付けるようなことは言わない，などの基本的なルールが守られるように配慮する。
・児童一人一人が学習活動に参加できるように配慮する。

<u>仮説2.　友達のよさや自分の足りないところにも気付き，互いに協力して学習するための支援の工夫</u>

・ディベート学習を取り入れる。
・グループでの活動時間（作戦タイム）を十分に取る。
・互いに学習の評価をし，発表する。

(5) 指導計画（５時間扱い）

第１次　ディベートのやり方と意義を確認し，よりよい学級生活を送るためのディベートの論題を提案できるようにする。　＜１時間＞

第２次　論題を選択し，論題に従って，計画，役割分担，ディベートの準備をする。　＜１時間＞

第３次　ディベートを行い，論題についてディベートを通しての自分の感想をまとめる。（本時４／５）＜３時間＞

(6) 本時の指導

① 目標 ・ディベートを通して，今後の学級生活についての考えを深める。

・主体的に，友達と協力して，ディベートに参加する。

② 展開

| 学　習　活　動 | 教　師　の　支　援 |
|---|---|
| 1. 本時のめあてを知る。 | ＊議題を明確にし，ディベートをする心がまえができるように準備させる。 |
| 2. ディベートを行う。<br>～席替えの方法について～<br>席替えは好きな席でよい。 | |
| ①賛成側の立論　（2分）<br>②反対側の質問　（2分）<br>③反対側の立論　（2分）<br>④賛成側の質問　（2分）<br>⑤作戦タイム　（5分）<br>⑥反対側の反論　（2分）<br>⑦賛成側の反論　（2分）<br>⑧作戦タイム　（5分）<br>⑨反対側，最後の主張（2分）<br>⑩賛成側，最後の主張（2分）<br>○ 判　定　（5分） | ＊論題やルールを明記したワークシートを配布しておく。<br>＊個人の体験を述べることを勧める。<br>＊個人攻撃はもちろん，特定の個人を話題にすることのないよう進行に配慮する。<br>＊自分たちの議論のどこがよいのか，どのようによいのかを判定者が主張できるように助言する。<br>＊論点を明確にメモできるようにする。（全員）<br>＊自分の意見で判定するのではなく，説得力で判定できるよう助言する。（判定理由を明記） |
| 3. 評価・感想をまとめ，発表する。 | ＊デイベートの感想だけではなく，ディベートを通して論題についての感想も書くよう助言する。<br>＊多様な価値観，考え方に気付かせ，考え方を深める。 |

③評価

・ディベートを通して，今後の学級生活について考えることができたか。

・主体的に，友達と協力してディベートに参加することができたか。

(7) 考察

・ディベート学習は個を育てることができる。ディベートには，誰もが発言し，発言を聞き，思考し，主張できる技術的な仕組みがある。自分の考えを明確にして発言し，主張する力，話し手の意図を正確に聞き取る力，論理的思考力といった個々の力を高めることができる学習である。

・一人一人が主体的に学習に取り組み，個を高め，望ましい人間関係の育成にも有効であるディベート学習を，今後も様々な教科・領域に関連させて取り入れていきたい。

**実践事例②（第４学年　体育科・音楽科）**

(1)　単元名　　「お祭り」

(2)　単元のねらい　〔学習過程参照〕

(3)　研究主題との関連

体育の表現運動と音楽の表現活動の単元を合わせることで，３つの利点が考えられる。

・表現した内容や動きに音楽を加えると，表したい動きが一層強く伝わる。

・音楽は，豊かなイメージを広げ，動きづくりのきっかけをつかむのに効果的である。

・気持ちを高揚させる音楽は，心の開放を促し，自由な身体表現を可能にする。

以上のことから，体育と音楽の関連的な学習を取り入れることで，より喜びのある学習につなげることができ，より多面的な物の見方や考え方が身に付くものと考える。

そして，この学習を通して，視覚，聴覚，言語感覚，運動感覚などの全てを包含した自己表現の原動力である感性を磨き，これを基盤として，児童が周囲の状況とかかわりながら何かを表したいという意欲をもたせたい。また，豊かなイメージを形成して創造的活動に取り組むなかで，総合的な表現力を育てていきたいと考える。この表現力は，児童一人一人が周囲とかかわりながら人間として生きていくためになくてはならないものであり，生きる力につながると考える。さらに，祭りは群の迫力が生きる題材でもあり，群表現を創るなかで磨き合い・支え合いができる題材であると考え，本単元を設定した。

(4)　分科会仮説とその手立て

<u>仮説１.　自分のよさを発揮しながら，主体的に学習するための支援の工夫</u>

・１時間の学習形態を工夫する。

個人個人の欲求を満たすような多様で柔軟な条件設定や場づくりを工夫して，児童自身が表現内容に応じた選択機会を多くもてるようにする。

<u>仮説２.　友達のよさや自分の足りないところにも気付き，互いに協力して学習するための支援の工夫</u>

・グルーピンクの工夫（表したいもの別のグループを作る。）

・評価の工夫（児童が相互に評価をし合う。良い動きカード，良い音カード）

(5)　学習過程〔次ページ参照〕

(6)　考察

はじめは動くことができなかったり，声を出すことも恥かしがったりした児童であったが，音楽が体を動かし，体が音楽を創ることができた。二つの単元を合わせることで恥かしい，どうすればいいのか分からないという殻を破ることができたものと考える。

また，心を開放することにより気軽に意見交換ができ，意欲的に学習ができた。よりよい表現を創るために，このかかわりが生き，磨き合い・支え合いができた。

磨き合い，支え合いの評価をどうするかについては，クループ間での磨き合いを，構想表に記入した。また，よい表現を創った児童には，表現カードで認め合いをした。しかし，評価という面では，まだまだ不十分であり，今後の課題である。

学習過程　「お祭り」〔体育　7時間　・音楽　5時間〕（配当時間　45×12）　本時8／12

| | | | 1 | 2 ～ 5 | 6 ～ 11 | 12 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 体育 | ねらい | 関心意欲態度 | ○表現運動の学習に関心をもち，進んで学習に取り組もうとする意欲をもつことができるようにする。<br>○友達と協力し，磨き合ったり，支え合ったりすることができるようにする。<br>○誰とでも一緒に動きを工夫したり，楽しく踊ったりできるようにする。 | | | |
| | | 思考判断 | ○自分の個性に合った現したいイメージをとらえることができるようにする。<br>○自分の表したいイメージに合った動きを工夫することができるようにする。 | | ○グループに合った表したいイメージをとらえることができるようにする。<br>○グループの表したいイメージに合った変化のある動きを，工夫することができるようにする。 | |
| | | 技能 | ○指先の動きや表情も含めて，体全体で踊ることができるようにする。<br>○祭りのイメージを広げ，即興的にどんどん踊ることができるようにする。<br>○表したい対象になって踊り続けることができるようにする。<br>○友達の動きのよさや表したい内容がわかり，直した方がよいところは助言できるようにする。 | | ○指先の動きや表情も含めて，体全体で踊ることができるようにする。<br>○表したい内容を協調するようなまとまった動きを工夫することができるようにする。<br>○他のグループのよさや表したい内容がわかり，直した方がよいところは助言できるようにする。 | |
| | 学習活動 | | ○学習の進め方を知り，見通しをもつ。<br>○学習の方法，内容を知る。<br>○学習の約束について，話し合う。<br>○カードの使い方や書き方について知る。<br>○準備運動をする。<br>○祭りのいろいろなイメージを，即興的に踊って楽しむ。<br>○次時のめあてをたてる。<br>○整理運動をする。 | ○準備運動する。<br>○本時の学習内容を知る。<br>○祭りのいろいろなイメージを，即興表現で踊って楽しむ。<br>・毎時間テーマが変わっても思いつくまま踊る<br>↓<br>磨き合い・支え合う<br>↓<br>工夫をして踊る<br>の流れを繰り返す。<br>○本時を振り返り，表現のできばえを学習カードに記入する。<br>○次時のめあてをたてる。<br>○整理運動をする。 | ○準備運動をする。<br>○本時の学習内容を確認する。<br>○グループで，一番表したいイメージの動きを工夫して踊って楽しむ。<br>・（始め ― 中 ― 終わり）で簡単なお話を考え，それをもとにしてひと流れの動きをつくる。<br>・グループで表したい感じを強調するように，動きを工夫して踊る。<br>・できた表現を，全体を通して踊りこむ。<br>・必要な学習情報を活用して練習する。<br>・グループの表現を見て，磨き合い・支え合いながら練習する。<br>○本時を振り返り，表現のできばえをカードに記入する。<br>○次時のめあてをたてたり，学習計画の修正をしたりする。<br>○整理運動をする。 | ○準備運動する。<br>○本時の学習内容を確認する。<br>○発表会に備えて練習する。<br>・初めから終わりまで通して動く。<br>・祭りの感じをイメージし，今までの課題を思い出しながら踊る。<br>・グループで気持ちを一つにして踊る。<br>○発表会をする。<br>・自分たちが創ったお話を発表し，一番表したいところを伝える。<br>・よいところを認め合う。<br>○自分の学習を振り返る。 |
| 音楽 | ねらい | 関心意欲態度 | ○イメージに合った音や音楽をつくることに関心をもち，進んで学習に取り組もうとする意欲をもつことができるようにする。<br>○友達と協力し，磨き合ったり，支え合ったりすることができるようにする。<br>○誰とでも一緒に工夫したり，よりふさわしい表現に高めたりしようとする。 | | | |
| | | 感受表現 | ○自分の個性に合った表したいイメージをとらえることができるようにする。<br>○場面の様子を感じ取りながら，即興的に音を選んだり音楽を工夫したりすることができるようにする。 | | ○グループに合った表したいイメージをとらえることができるようにする。<br>○声や楽器，身のまわりの音素材を選んで，場面の合う奏法の仕方や組み合わせを工夫することができるようにする。 | |
| | | 技能 | ○声や楽器，身のまわりの音素材をつかって場面に合った音や音楽をつくって表現することができるようにする。 | | ○声や楽器，身のまわりの音素材を組み合わせて，場面に合った音や音楽をつくって表現することができるようにする。 | |
| | | 鑑賞 | ○お互いの声や音楽を聴き合い，友達の表現のよいところを認め，直した方がよいところは助言できるようにする。 | | | |
| | 学習活動 | | ○学習の進め方を知り，見通しをもつ。<br>○学習の方法，内容を知る。<br>○学習の約束について，話し合う。<br>○カードの使い方や書き方について知る。<br>○祭りのいろいろな場面を感じ取ってどんな音楽をつくったらよいかを考える。<br>○次時のめあてを立てる。 | ○本時の学習内容を知る。<br>○祭りのいろいろな場面を感じ取ってどんな音楽を創ったらよいかを考える。<br>○声や楽器，身のまわりの音素材の演奏の仕方を工夫して，祭りのイメージに合う音楽を創る。<br>・毎時間テーマが変わっても思いつくまま奏でる<br>↓<br>磨き合い・支え合う<br>↓<br>工夫をして奏でる<br>の流れを繰り返す。<br>○本時を振り返り，表現のできばえを学習カードに記入する。<br>○次時のめあてを立てる。 | ○本時の学習内容を確認する。<br>○楽器を用意する。<br>○グループで，一番表したいイメージの音楽を工夫する。<br>・（始め ― 中 ― 終わり）で簡単なお話を考え，それをもとにして，音楽を工夫する。<br>・グループで表したい感じを協調するように，音楽を工夫する。<br>・できた表現を，全体を通して練習する。<br>・必要な学習情報を活用して練習する。<br>・グループの表現を聞いて，磨き合い・支え合いながら練習する。<br>○本時を振り返り，表現のできばえをカードに記入する。<br>○次時のめあてを立てたり，学習計画の修正をする。<br>○楽器を片付ける。 | ○本時の学習内容を確認する。<br>○楽器を用意する。<br>○発表会に備えて練習する。<br>・始めから終わりまで通して演奏する。<br>・祭りの感じをイメージし，今までの課題を思い出しながら演奏する。<br>・グループで気持ちを一つにして演奏する。<br>○発表会をする。<br>・自分たちが作ったお話を発表し，一番表したいところを伝える。<br>・よいところを認め合う。<br>○自分の学習を振り返る。<br>○楽器を片付ける。 |
| 教師の支援 | 個人 | | ○事前に意識調査を行い，児童の興味・関心や意欲の状況をつかむ。<br>○学習の進め方，方法，内容を分かりやすく示す。<br>○祭りに対してイメージできない子供には，ＶＴＲ・写真ＢＧＭを示す。<br>○一人一人がめあてをもてるように，学習カードを作る。<br>○どの子の表現も認め，励ます。<br>○よい動きやよい音に声かけをし，賞賛する。 | | ○自分にあっためあてをもてるように助言する。<br>○グループ内で自分のアイデアが出せるように助言する。<br>○さらによい動き，よい音楽を追求できるように励ます。<br>○一つ一つの表現を丁寧にできるように助言する。<br>○学習への取り組み方や表現の高まりなど，少しでもよくなったところを賞賛し，主体的な学習への意欲を高める。 | |
| | 全体グループ | | ○一人一人の自由な発想が出せるような，クラスの雰囲気を作る。<br>○友達と見合い・聞き合い，磨き合い・支え合いながら学習できるように助言する。<br>○友達への言葉かけやよい助言に対して，賞賛する。 | | ○表現を創る助けとなるような，動きやリズムのヒントを助言する。<br>○表現があてに沿って行われているか観察し，指導・助言する。<br>○表現のできばえを確かめられるように，学習カードやＶＴＲを活用するように助言する。<br>○友達と表現を発表しあい，磨き合い・支え合いながら学習できるように助言する。<br>○一つ一つの表現を丁寧にし，グループでまとまりのある表現ができるように，動きや音楽を合わせるように助言する。<br>○表現がよりよいものになるように，隊形を工夫できるように例を示す。<br>○友達のよさを進んで見付け，互いに認め合えるようにする。<br>○学習への取り組み方や表現の高まりなど，少しでもよくなったところを賞賛し，主体的な学習への意欲を高める。また，グループ内での活動をより活発にする。 | |

## 5. 研究のまとめと今後の課題

本分科会では，「一人一人がさらに輝く」ために，「磨き合い，支え合う児童の育成」に向けて実践的に研究に取り組んだ。

(1) 研究の成果

① 横断的・総合的な視点に立った学習へのステップとして，教科・領域を関連させた学習の取り組みから

児童主体の豊かな学習活動が展開できるよう，教科・領域を関連させた学習に取り組んだ。授業実践を重ねるにつれ，次のようなことが成果として明らかになった。

教科・領域を関連させた学習を工夫することにより

ア一つの活動に意欲的に取り組む時，関連のある他の活動にも児童の学習意欲が転　移する。

イ学習内容などを効果的に組み合わせると，物の見方や考え方が，多面的になる。

ウ児童の思考の流れが，教科や単元の枠を越えて自由に広がり，自分の思いや願いをかなえることができ，豊かな学習活動ができる。

② 人と人とのかかわりを通した磨き合い，支え合う場の工夫から

一人一人の児童が主体的に学習するためには，個に応じた指導の充実・発展を図るとともに，学習における他者とのかかわりを重視することが大切である。互いに「認め合い」「励まし合い」「支え合い」ながら学習を進めることにより，より豊かな個性の伸長が図られ，一人一人が輝くことができると考えた。そこで，人と人とのかかわりを通して磨き合い，支え合う場の工夫を図った結果，次のような児童の姿が見られた。

ア互いのよさや可能性に気付き，認め合い，協力して学習を進めた。

イ友達からよさを認められたことにより，自信をもって自己表現できるようになった。

(2) 今後の課題

① 横断的・総合的な視点に立った学習へのステップとして，教科・領域を関連させた学習の取り組み

ア仮説からの検証（教育評価）が難しく，その方途を明確にする必要がある。

イ何もかも教科・領域を横断させるのではなく，児童の思考の流れを中心に検討しながら，年間指導計画の段階から，時数や内容について吟味することが必要である。

ウ児童主体の授業を構成するとともに，基礎的・基本的内容の徹底，学習が遅れがちな児童への対応を一層考慮するよう，具体的な支援を工夫することが大切である。

② かかわりを通して

ア学習面だけでなく，普段の学校生活の中でもかかわりをもたせる働きかけが必要である。

イ個々の考えが十分定まらないままかかわると，集団思考が深まらず，かかわり自体の効果が薄れることがある。グループづくりにおける工夫や自分の考えをもたせるなど，具体的な手立てを考えていく必要がある。

ウ互いに情報交換はできているが，すぐ教えてもらうなど，友達に頼るあまり，課題を自分の力で解決するという粘り強さが十分身に付かないことがある。互いに高め合うことへの意識をもたせるなど，適切な支援を工夫していきたい。

## Ⅳ　研究のまとめと今後の課題

### 1.　研究のまとめ

本年度は，共通研究主題を「生きる力をはぐくむ教育活動の研究」と設定し，三つの分科会を構成して研究に取り組んだ。

本研究では，『生きる力』を「自分の考えをもって主体的に学ぶ力」「他者と積極的にかかわり合い，互いに高め合える力」と考えた。そして，共通の三つの視点を踏まえながら以下の分科会ごとの研究主題を設定し，研究を進めた。

第一分科会　・人と人とのかかわりの中で，共に高まり合える児童の育成

第二分科会　・自己を見つめ，互いに伸びようとする児童を育てる支援の在り方

第三分科会　・一人一人がさらに輝くために　－磨き合い，支え合う児童の育成－

各分科会では，主題に迫るために，研究のねらい，仮説を明確にしながら構想図に表し，授業実践を通して検証していった。

研究の成果　その結果，次のことが明らかになった。

(1)　学習活動において，人と人とのかかわり合いを重視し，多様なかかわりの場を設定したり，かかわり方の支援をしたりすることによって，互いに高め合おうとする姿が見られるようになり，主体的な学習が進められるようになった。

・かかわりの場を増やしていくことで，多くの人とふれ合い，相手の考えを聞き入れたり，自分の考えを伝えたりする姿が見られるようになった。また，それにより課題解決の方法が多様になった。

・「認め合い」「励まし合い」「支え合い」ながら学習を進めることによって，互いのよさや違いがわかり，個々の力を，相互に生かし合えるようになった。

(2)　自己を見つめる場を設定することにより，一人一人が課題をもち主体的に学習を進めるようになった。

・自己を見つめることで，他者との違いに気付き，自己を見つめ直し向上しようとする姿が見られるようになった。

・個々の思いや願いに応じた支援をすることで，自分の考えに自信をもち，意欲的に課題解決に向かう姿が見られた。

### 2.　今後の課題

研究の結果，次の点が課題として残った。今後さらに研究を深めていきたい。

(1)　「生きる力」について，継続研究するなかで，児童の側に立った支援の在り方を一層考えていく必要がある。

(2)　教科間の関連を重視した，横断的・総合的な学習について，継続研究する必要がある。

(3)　人と人とのかかわりの場とかかわり方についての支援の在り方は，学習活動の場で確かめることができた。しかし，児童個々が相手とどのようにかかわり，関係がどのように深まったかについての評価は，継続して研究していく必要がある。